

平成30年度第3回久留米市地域福祉計画推進協議会議事要旨

開催要領

- 1 開催日時 平成31年2月12日（火） 15時00分～16時50分
- 2 会場 久留米市総合福祉センター（2階大会議室）
- 3 出席者 委員23名
綾部委員、岡委員、豊福委員、高木委員、坂井(弘)委員、本山委員、
江上委員、城戸委員、高田委員、湯地委員、坂井(恵)委員、藤野委員、
郷原委員、村井委員、藤田委員、森山委員、阪本委員、濱崎委員、
窪田委員、内藤委員、石井委員、江藤委員、田端委員
- 4 欠席者 委員2名
古賀委員、津野委員
- 5 傍聴者 なし

次第及び議事要旨

- 1 開会
- 2 報告事項
(1) 平成30年度第2回協議会議事要旨
(2) 部会の開催状況

【主な意見】

- 支え合い推進会議では、見守りや買い物支援、人材不足等について話し合われているが、具体的な取り組みにまでは至っていない。支え合い推進部会では、これまでと異なる分野（産業分野等）との連携についても少し見えたため、停滞している現状の打破や人材の確保に繋がるのではないかと期待している。
- どこも人材不足であり、「このくらいであれば私にもできる」という意識を広げて、支える側、担い手を増やしていく必要がある。
- 沢山の会議が行われているが、会議の場だけで話が終わってしまっている。地域の実態を押さえた上で、多くの機関が連携しながら課題を解決し、それらの情報を2つの部会が吸い上げ、2つの部会とこの協議会が連携し、更にはそれらを地域に下ろすことによって、地域に合った実働につなげて行くことが重要。

- (3) ヒアリング、ワークショップ、アンケートの状況

【主な意見】

- 聞いてもらわないと話せないこともあるので、より多くの団体にヒアリングをして欲しい。
- ワークショップに参加したが、グループワークなので意見が出しやすく、高齢者だけでなく、障害者の課題等も出て、全体で課題を共有することができた。地域の中に障害者が入っていくきっかけになったと感じる。一方で、他の圏域のワークショップでは、障害者を隠すような地域性があるという話を聞いた。

- ワークショップを見学したが、活気があって非常によかった。支え合い推進会議が立ち上がっていない校区で実施すると、参加者が理解しやすいので、支え合い推進会議の立ち上げが円滑に進むのではないかと感じた。

3 協議事項

(1) 第3期 久留米市地域福祉計画 策定方針について

＜原案どおりで承認＞

【主な意見】

- 会議よりも、実際に課題を目の当たりにしたらすぐに取り組む、すぐに対応するということが重要。
- 「人権が尊重されるまちづくり」が土台となっているが、支え合いを推進するにあたって、人権意識をどう住民に広めていくかが重要。
- コミュニティが強い地域でも、外国人は外国人で固まって行動している姿をよく見かける。孤立させないためにも、交流する場が必要。
- 社会は健常者中心に動いている。そういう考えを改めていく必要がある。

(2) 改正社会福祉法における計画に盛り込むべき事項について

【主な意見】

(福祉に関し、共通して取り組むべき事項(案)について)

- とてもよい案だと思うが、自分から支援を求めることができない、あるいは、支援を求めることが許されない環境もある。そのような中で、地域住民が課題を掘り起こすのは厳しいと感じる。住民が声を出せる(助けを求めることができる)工夫がないと、上手に機能しないのではないか。
- お互いの認識をどう一致させていくか、心をどう開いてもらうかについて考える必要がある。
- 自治会に自分の意思で入っていない人、自治会に入りたくても入れない人への対応等についても考える必要がある。
- 住民主体の活動を広げることで、ちょっとした変化に身近な所で気づききっかけになるのではないか。

(包括的な支援体制の整備に関する事項(案)について)

- 「民生委員・ボランティア等の活動充実」「担い手の育成」とあるが、現実には1人が何役も担っていて、なり手が不足している。活動できる人を増やす具体的な案が必要。
- 「身近な相談窓口の確保と質の向上」については、身近な施設に専門職を配置すること等が考えられるのではないか。地域間の格差も解消できるし、市との繋ぎ役にもなると思う。
- アウトリーチ(訪問による課題の掘り起こし)も必要。

4 その他

- 委員の任期を平成32年3月31日まで延長したい。
- 次回協議会は、次年度開催予定。

5 閉会